嘉麻市子どもの生活状況調査報告書
【概要版】

調 査 の 概 要

調査の位置付け

子どもの将来が、家庭の経済的理由などによる生まれ育った環境に左右されることがないよう、また困難が世代を越えて連鎖することがないよう必要な環境整備を図るための基礎資料を得ることを目的に、調査を実施します。また、令和６年度に策定する嘉麻市こども計画（子どもの貧困対策計画）に反映することとします。

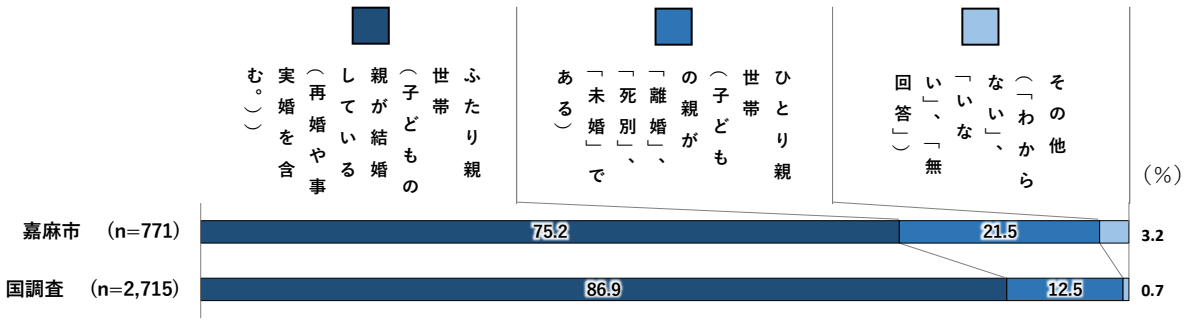
調査方法と回収状況

調査対象	保護者調査	① 小学校及び義務教育学校４～６年生の保護者510人 ② 中学校１～３年生及び義務教育学校７～９年生の保護者755人　合計1,265人
	子ども調査	① 小学校及び義務教育学校４～６年生886人 ② 中学校１～３年生及び義務教育学校７～９年生854人　合計1,740人
調査方法	保護者調査	学校を通じて調査票の配布及び回収 ※世帯の中で、調査対象となる子どもが２人以上いた場合は、長子の子どもに保護者票を配布
	子ども調査	学校を通じて調査票の配布及び回収
調査期間	共通	令和５年10月6日（金）～11月2日（木）
調査結果	保護者調査	有効回収数：773（有効回収率：61.1%）
	子ども調査	有効回収数：1,084（有効回収率：62.3%）

回答者の属性

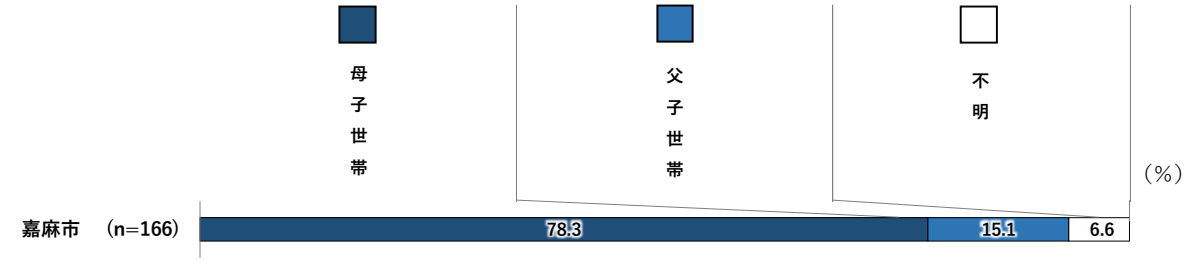
【保護者】

★世帯状況



※国調査：内閣府実施の「令和２年度　子供の生活状況調査」結果

★ひとり親世帯の内訳

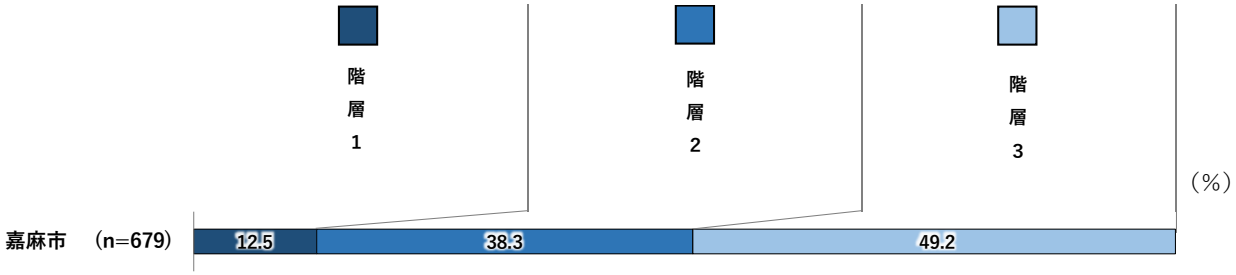


★等価世帯収入に伴う階層の分類

階層１：（中央値の２分の１未満）「経済的な課題を抱えている世帯」

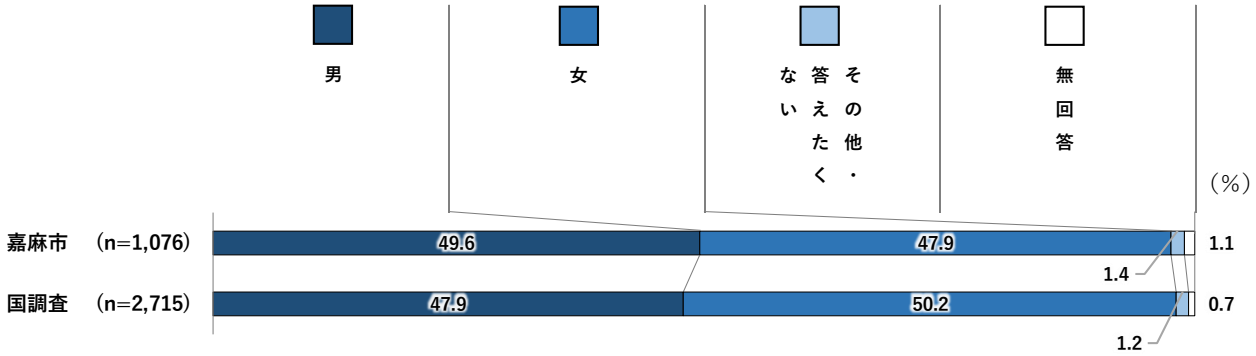
階層２：（中央値の２分の１以上中央値未満）「経済的な課題を抱えるリスクが高い世帯」

階層３：（中央値以上）「経済的な課題を抱えるリスクが低い世帯」



【子ども】

★性別



調 査 結 果 一 覧（抜 粋）

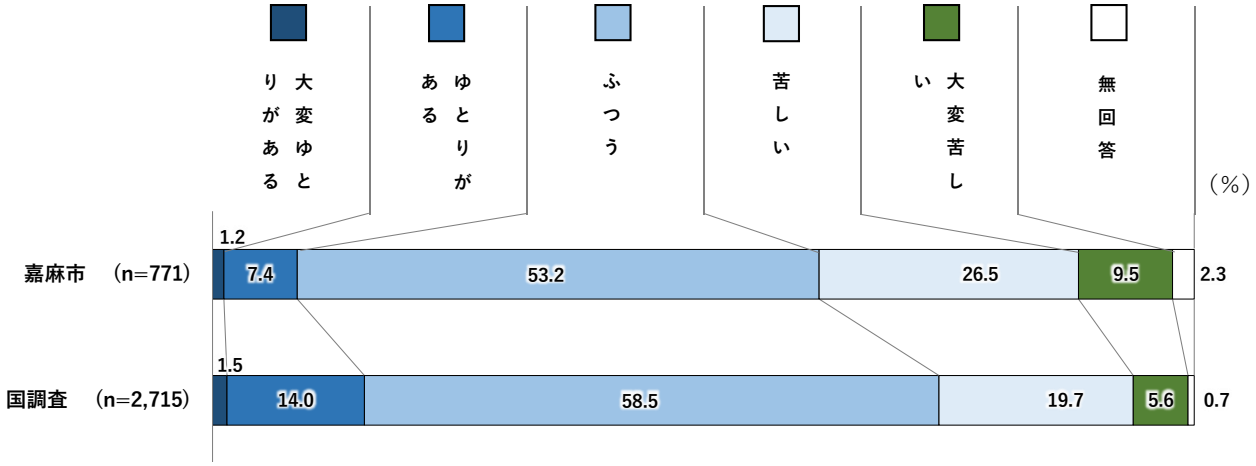
保護者向け調査の結果

1　生活全般について

★現在の暮らしの状況

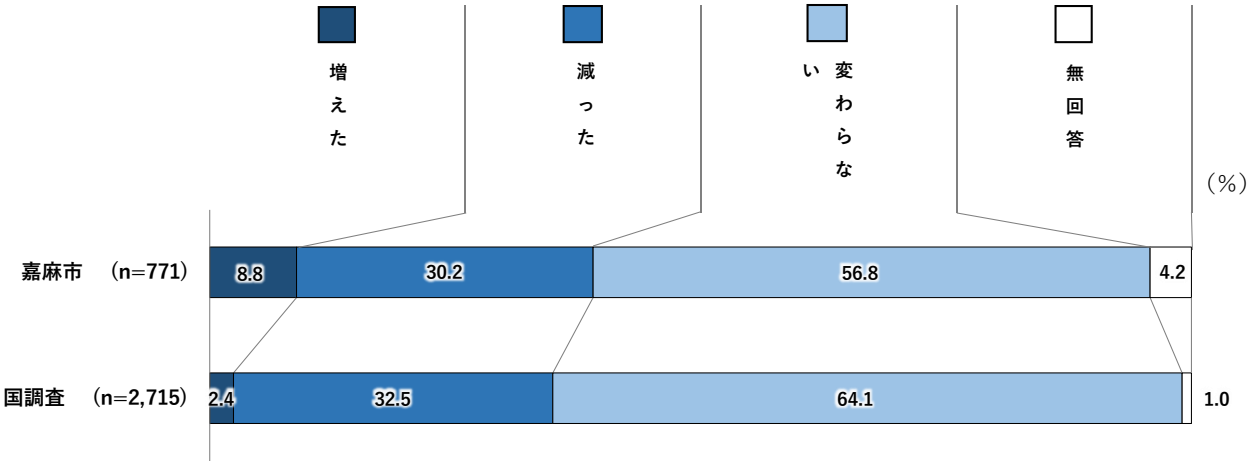
現在の暮らしの状況について、本市では「ふつう」の割合が約５割で最も高く、「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた『苦しい・計』が３割半ばで続いています。

国調査との比較では、『苦しい・計』における国調査の割合が２割半ばであり、本市は高い傾向にあります。



★新型コロナウイルス感染症の拡大による影響［世帯全体の収入の変化］

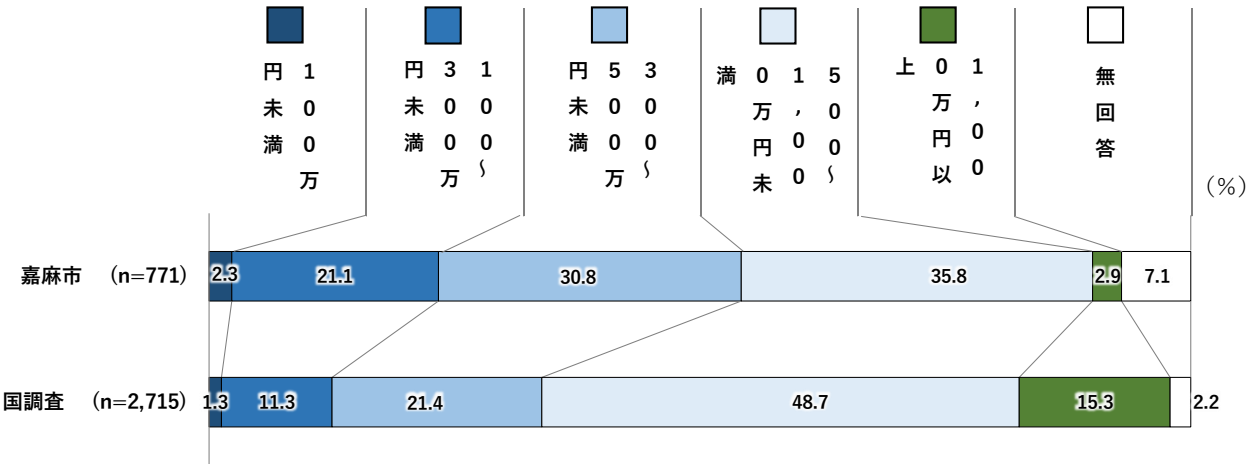
新型コロナウイルス感染症の拡大による影響［世帯全体の収入の変化］について、本市では「変わらない」の割合は 6 割弱で最も高く、「減った」が約 3 割で続いています。



★世帯全体の年間収入（税込）

世帯全体の年間収入（税込）について、本市では「500～1,000 万円未満」の割合が 3 割半ばで最も高く、その中でも「600～700 万円未満」、「500～600 万円未満」がそれぞれ約 1 割を占めています。

国調査との比較では、「1000 万円以上」における国調査の割合が 1 割半ばであることに対し、本市では 1 割未満と低い傾向にあります。

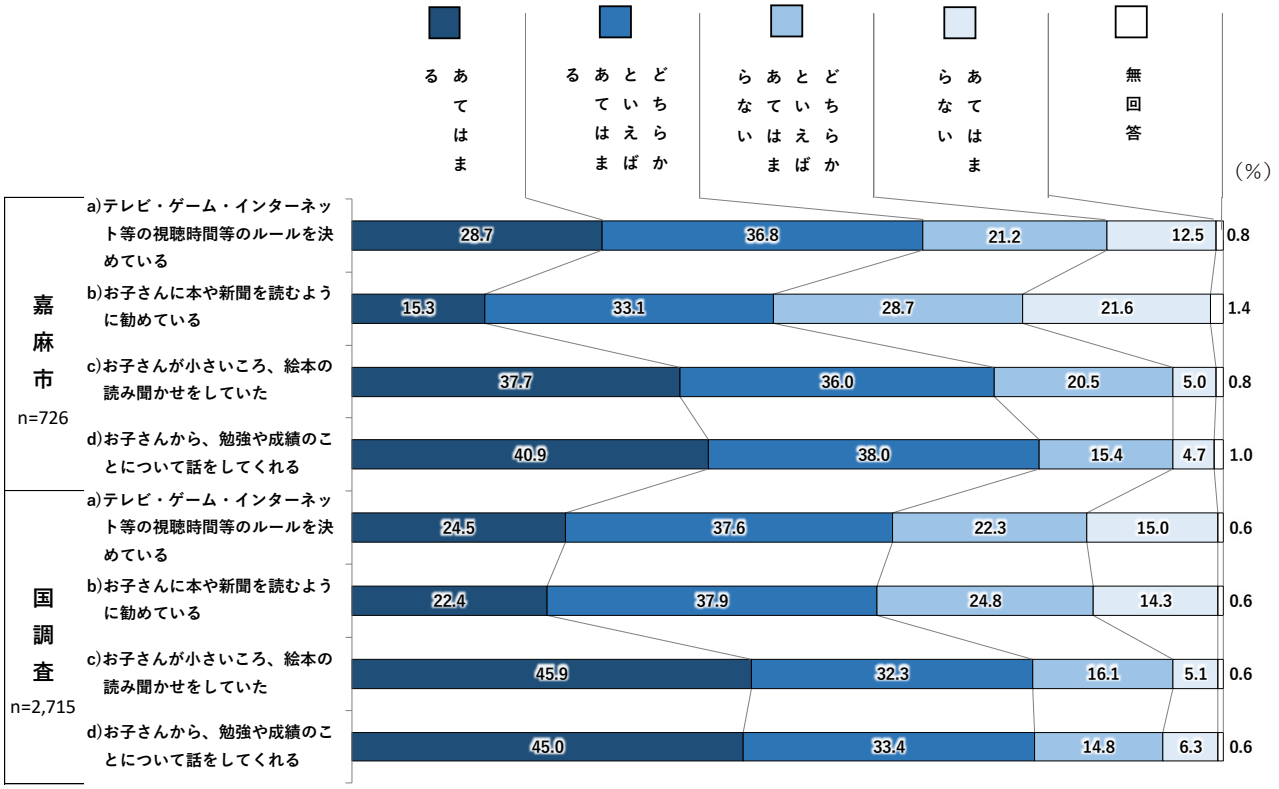


2 子育てについて

★子どもとの関わり方

子どもとの関わり方について、本市では「d)お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」における「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる・計』の割合は約８割で、他の項目に比べて最も高くなっています。

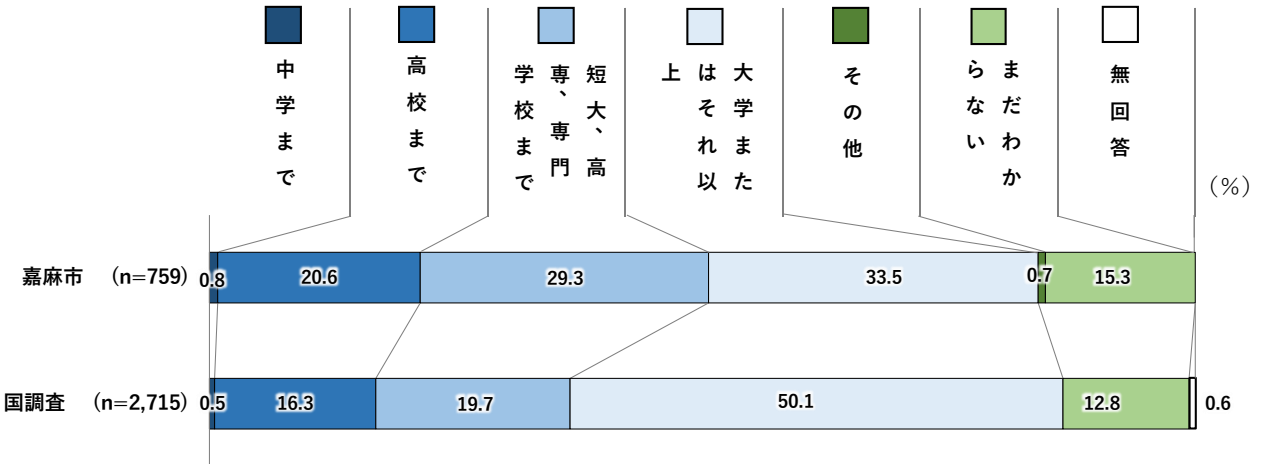
国調査との比較では、国調査では「b)お子さんに本や新聞を読むように勧めている」における『あてはまる・計』の割合が約６割であることに対し、本市では約５割と低い傾向にあります。



★子どもの進学について

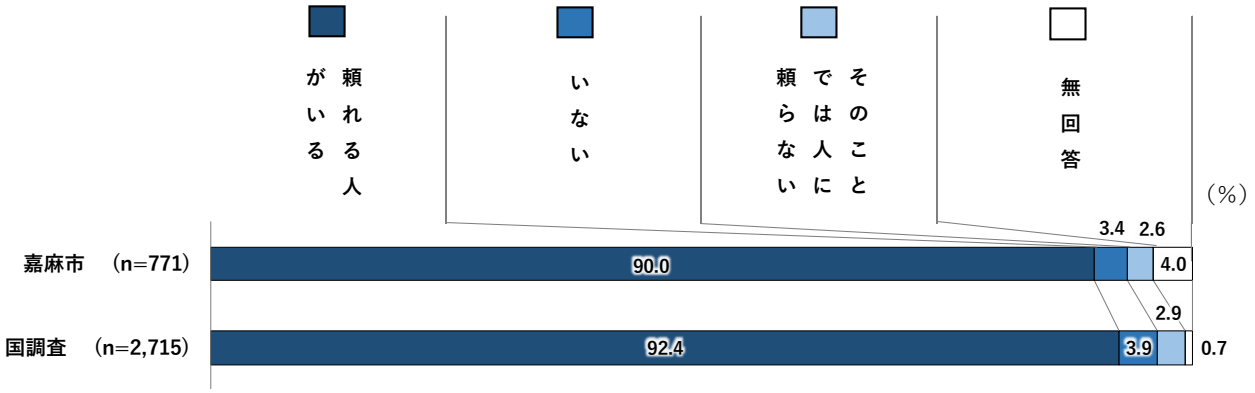
子どもの進学について、本市では「大学またはそれ以上」の割合が３割強で最も高くなっています。

国調査との比較では、「大学またはそれ以上」における国調査の割合が約 5 割であり、本市は低い傾向にあります。



★子育てに関する相談

子育てに関する相談について、本市では「頼れる人がいる」の割合が約９割で最も高くなっています。

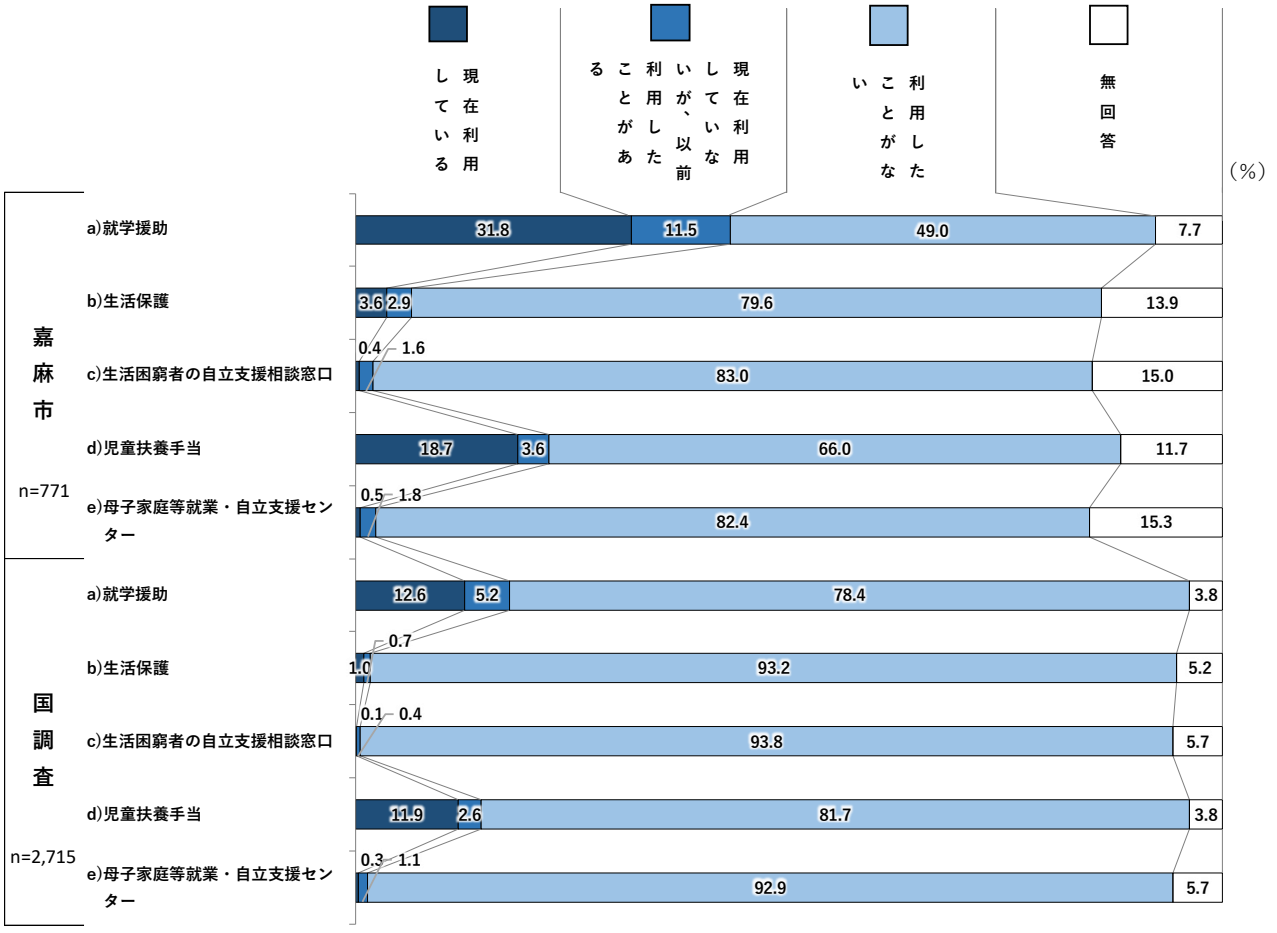


3　子育て支援制度について

★公的な子育て支援制度の利用状況

公的な子育て支援制度の利用状況について、本市では「a)就学援助」における「現在利用している」の割合は約３割で、他の項目に比べて最も高くなっています。

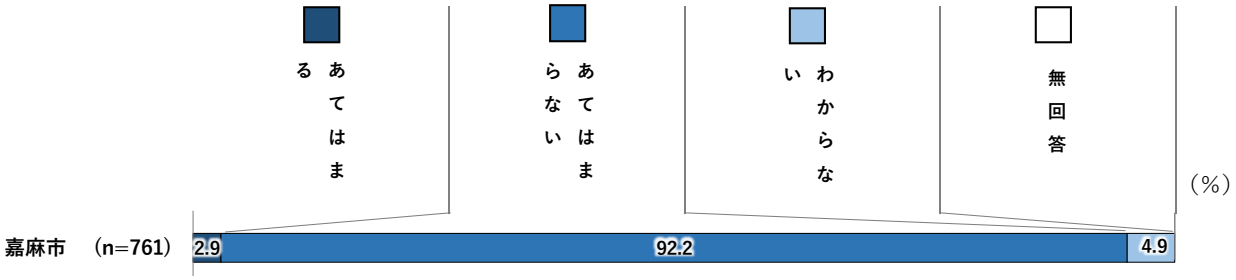
国調査との比較では、いずれの項目においても国調査では「利用したことがない」の割合が８割以上を占めています。



4　ヤングケアラーについて

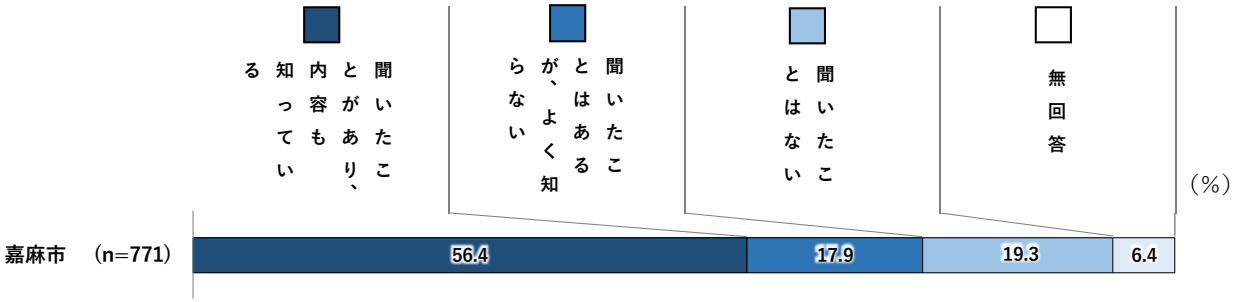
★お子さんのヤングケアラー該当に関する認識

お子さんのヤングケアラー該当に関する認識について、本市では「あてはまらない」の割合が９割強で最も高くなっています。



★ヤングケアラーという言葉の認知状況

ヤングケアラーという言葉の認知状況について、本市では「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が５割半ばで最も高く、「聞いたことはない」が約２割で続いています。



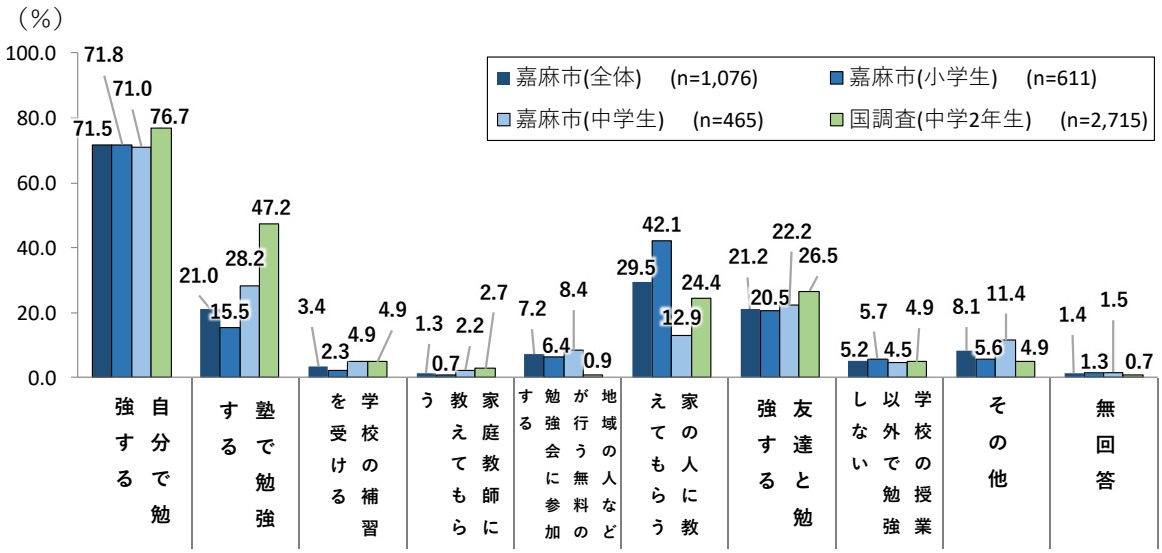
小学生・中学生向け調査の結果

1　勉強について

★学校以外での勉強の状況

学校以外での勉強の状況について、本市では「自分で勉強する」の割合が約７割で最も高くなっています。また、「塾で勉強する」は学年が上がるほど割合が高くなっています。

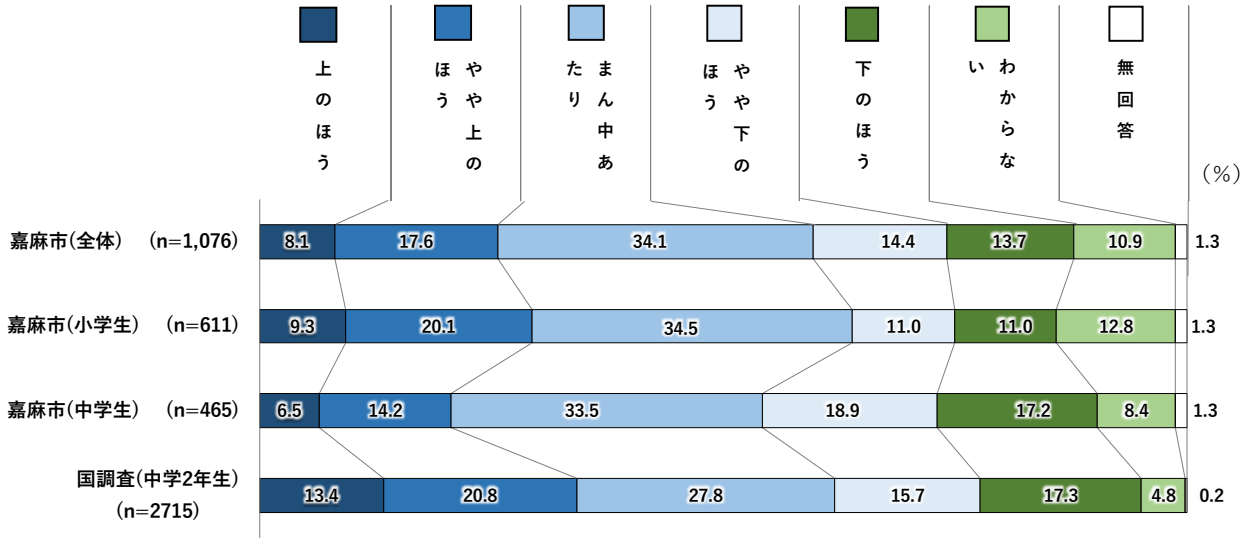
中学生における国調査との比較では、「塾で勉強する」における国調査の割合が５割弱であることに対し、本市では約３割と低い傾向にあります。



★クラスの中での成績

クラスの中での成績について、本市では「まん中あたり」の割合が 3 割半ばで最も高く、「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた『下位・計』が約 3 割で続いています。

中学生における国調査との比較では、「上のほう」と「やや上のほう」を合わせた『上位・計』における国調査の割合が 3 割半ばであることに対し、本市では約 2 割と低い傾向にあります。

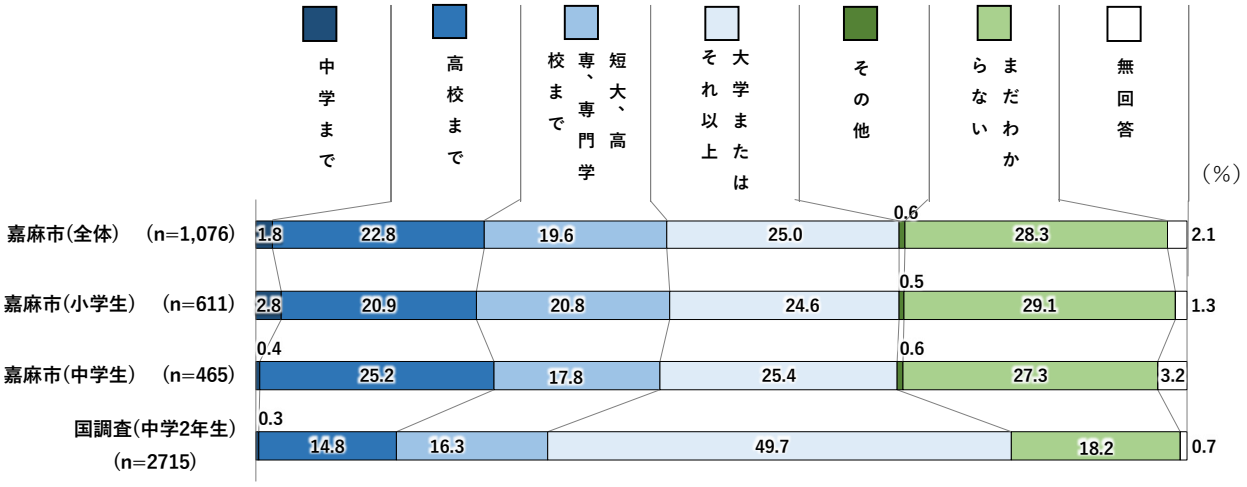


2 進学希望について

★希望する進学先

希望する進学先について、本市では「まだわからない」の割合が約 3 割で最も高く、「大学またはそれ以上」が 2 割半ばで続いています。

中学生における国調査との比較では、「大学またはそれ以上」における国調査の割合が約 5 割であることに対し、本市では 2 割半ばと低い傾向にあります。

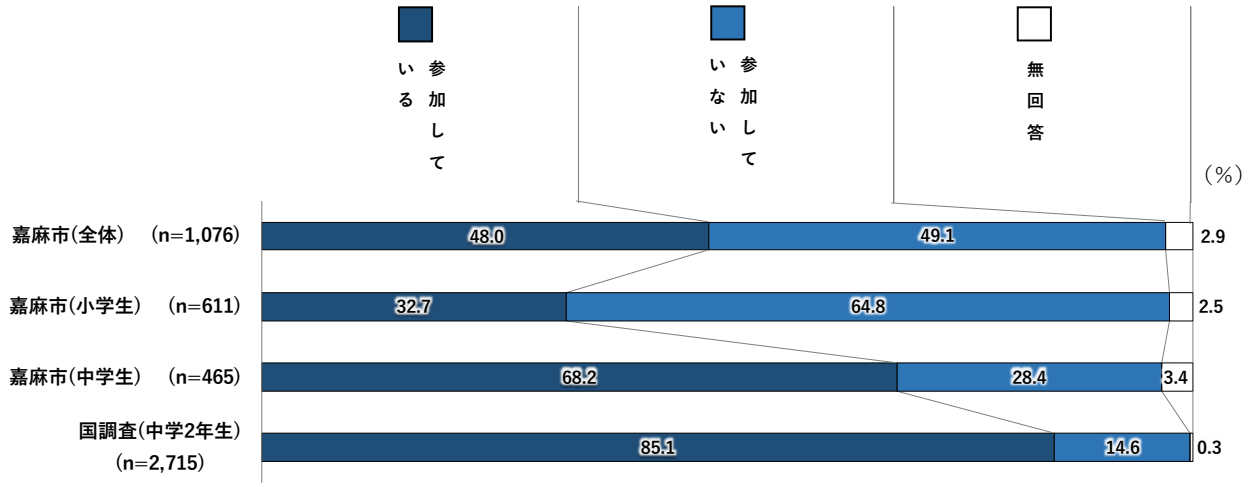


3 地域のクラブ等への参加状況・参加していない理由

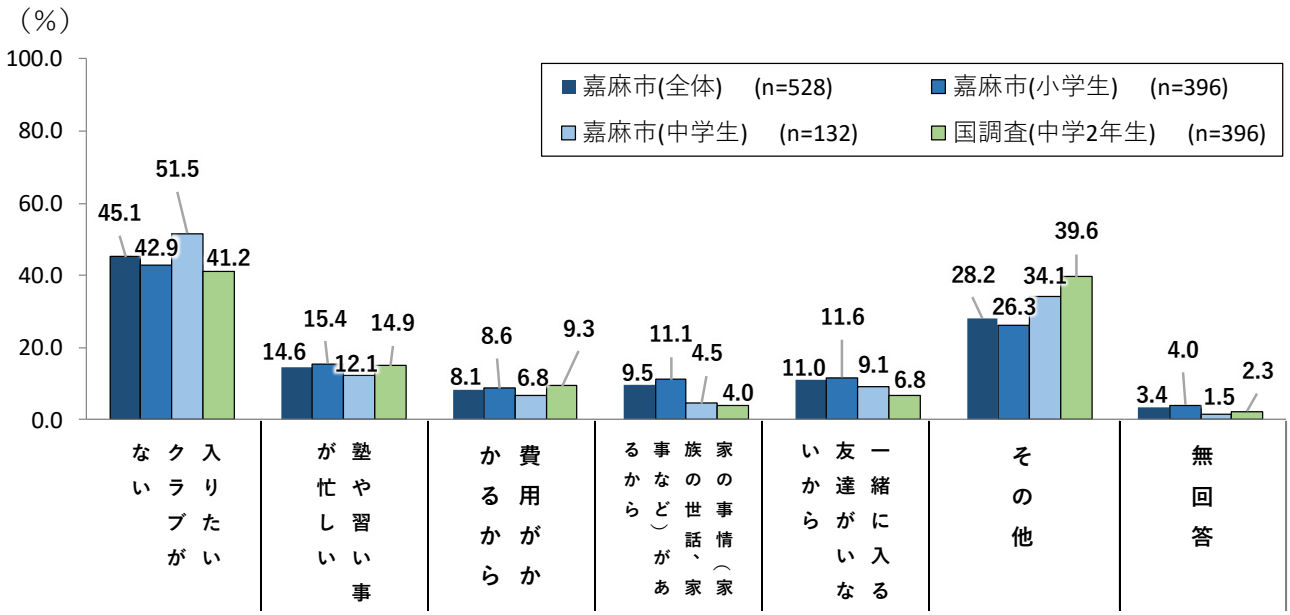
★地域のスポーツクラブや文化クラブへの参加状況と、参加していない場合の理由

地域のスポーツクラブや文化クラブへの参加状況について、本市では「参加している」と「参加していない」の割合はほぼ同率です。

中学生における国調査との比較では、「参加している」における国調査の割合が 8 割半ばであることに対し、本市では約 7 割と低い傾向にあります。



参加していない場合の理由について、本市では「入りたいクラブがない」の割合が 4 割半ばで最も高くなっています。

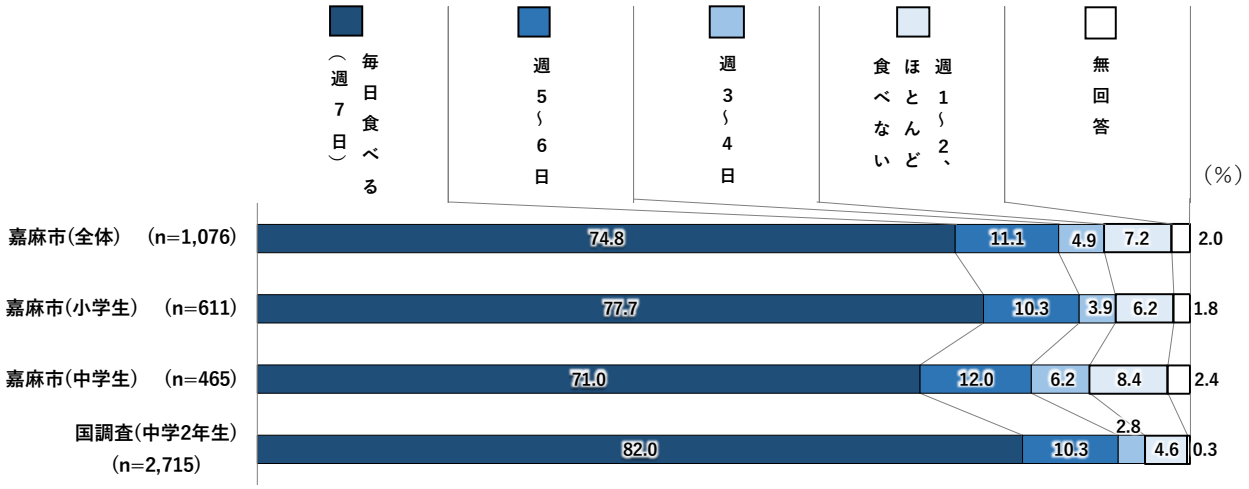


4　日常生活について

★食事の状況［朝食］

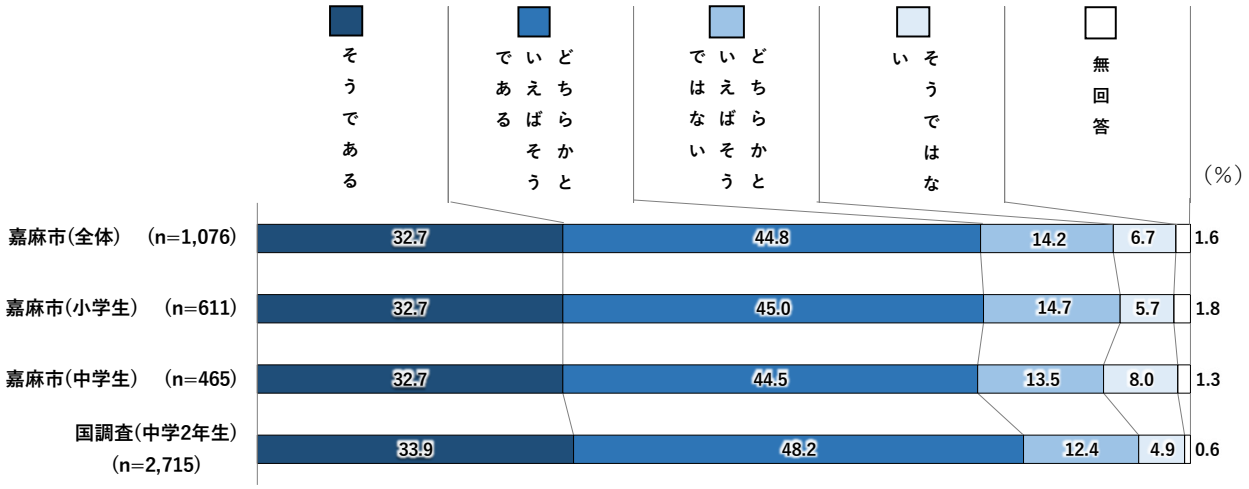
朝食の状況について、本市では「毎日食べる(週７日)」の割合が約７割で最も高くなっています。

中学生における国調査との比較では、「毎日食べる(週 7 日)」の国調査の割合が 8 割強であることに対し、本市では約７割と低い傾向にあります。



★就寝時間

就寝時間（ほぼ同じ時間に寝ているか）について、本市では「そうである」と「どちらかといえばそうである」を合わせた『そうである・計』の割合は約８割弱です。

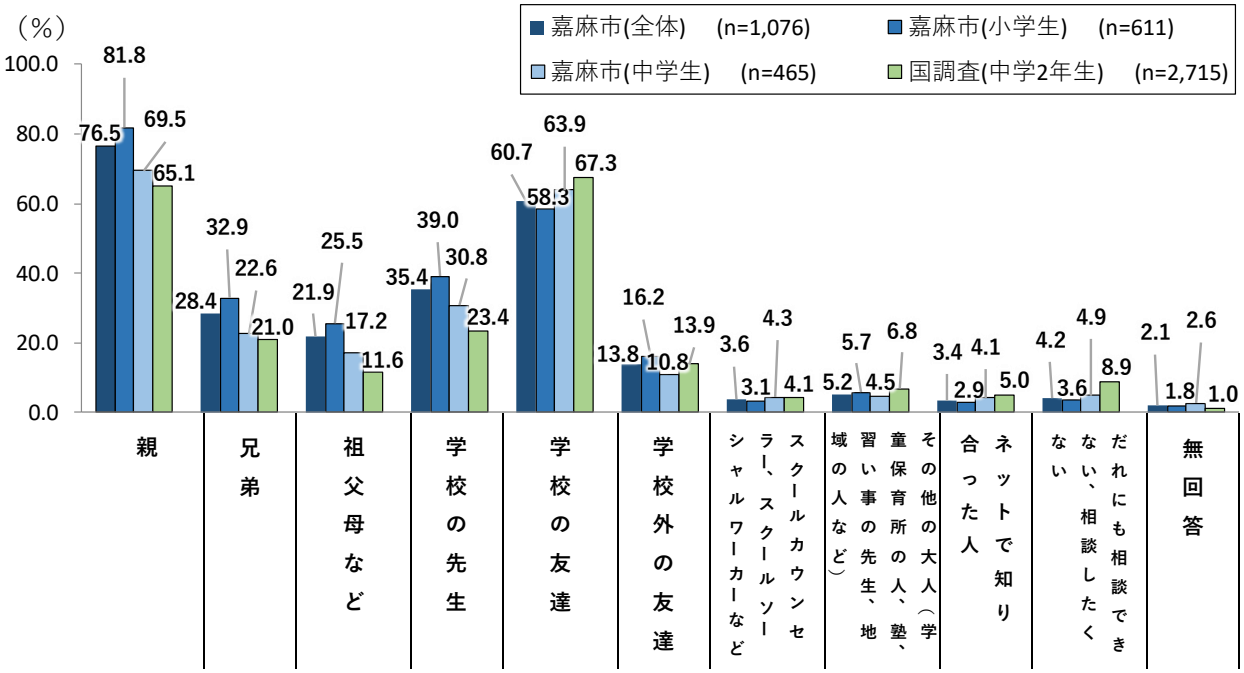


5 悩みや困りごとの相談相手

★悩みや困りごとの相談相手

悩みや困りごとの相談相手について、本市では「親」の割合が８割弱で最も高く、「学校の友達」が約６割で続いています。

中学生における国調査との比較では、「学校の先生」における国調査の割合が 2 割強であることに対し、本市では約３割と高い傾向にあります。

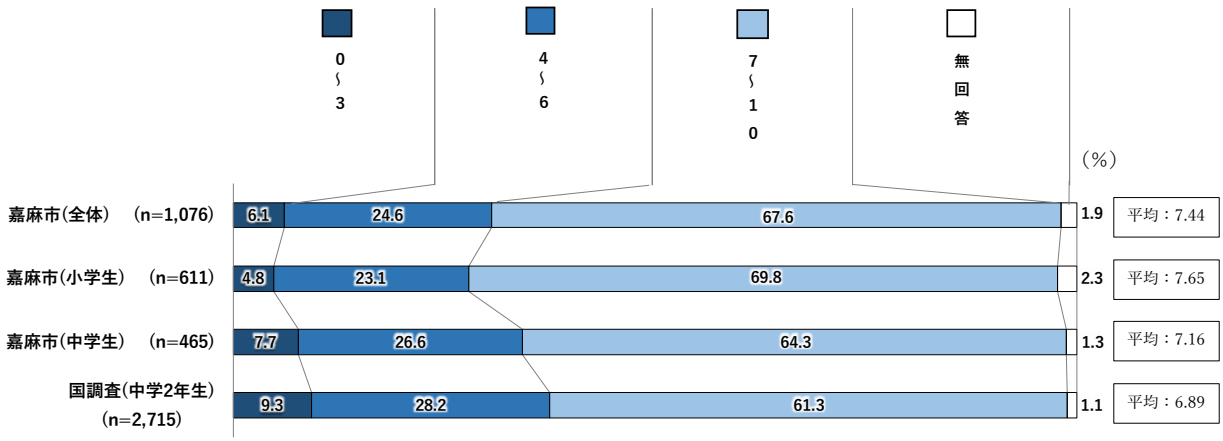


6 全体としての生活満足度

★生活満足度

生活満足度について、本市では「7～10」の割合が７割弱で最も高くなっています。

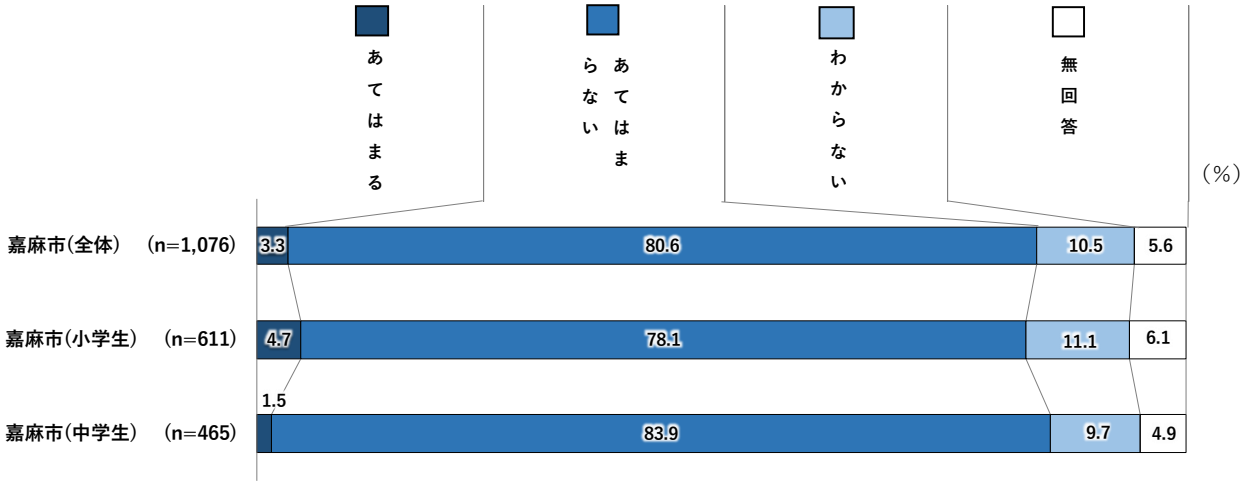
中学生における国調査との比較において、本市の方が国調査よりも満足度平均値は高くなっています。



7　ヤングケアラーについて

★ヤングケアラー該当に関する認識

ヤングケアラー該当に関する認識について、本市では「あてはまらない」の割合が約８割で最も高くなっています。



【参考（国調査※）】

○世話をしている家族がいるかどうか

中学２年生（n=5,558）：いる　5.7%

いない　93.6%

無回答　0.6%

○自分がヤングケアラーにあてはまると思うか

中学２年生（n=5,558）：あてはまる　1.8%

あてはまらない　85.0%

わからない　12.5%

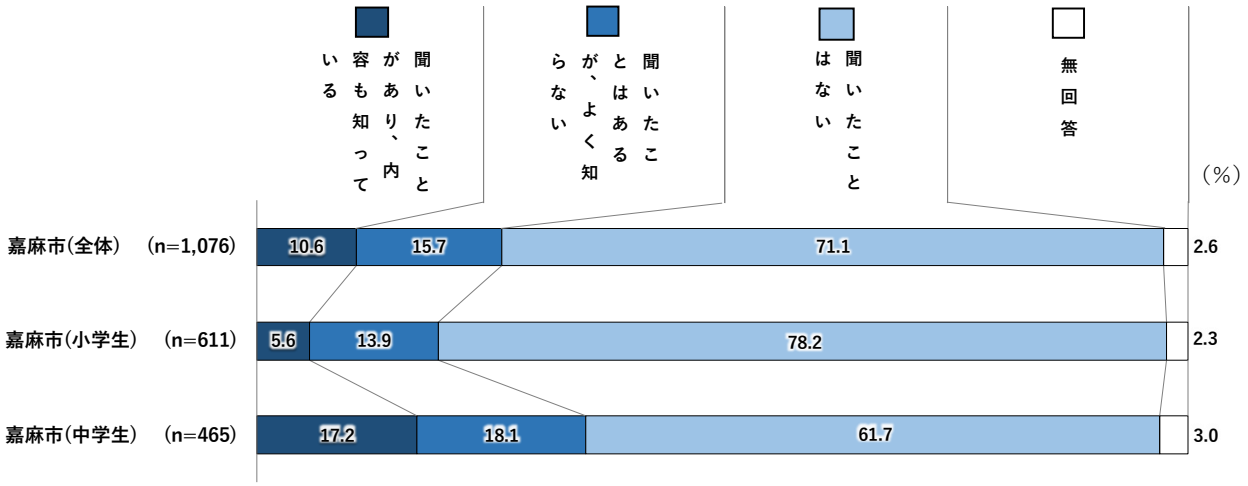
無回答　0.7%

※厚生労働省・文部科学省：「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和３年３月）

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社

★ヤングケアラーという言葉の認知状況

ヤングケアラーという言葉の認知状況について、本市では「聞いたことはない」の割合が約７割で最も高く、「聞いたことはあるが、よく知らない」が１割半ばで続いています。



調 査 結 果 の ま と め

保護者向け調査の結果

★現在の暮らしの状況は、『苦しい・計』が本市全体で 3 割半ばであり、階層が低くなるほどその割合は高くなります。また、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響における世帯全体の収入変化でも、階層が低くなるほど「減った」と回答した人の割合が高くなっており、低い階層ほど直近の生活環境による影響を強く受けています。

★子育てについては、階層・世帯問わず、多くの保護者が「相談できる人がいる」という状況は読み取れますが、階層が低くなるほど子どもとのかかわり方が薄くなることや、子どもの進学先等で「大学まで」の割合が低くなることなど、階層による傾向が明確に表れています。

★公的な子育て支援制度の利用については、階層が低くなるほど、またひとり親世帯（特に母子世帯）であるほど、「就学援助」や「児童扶養手当」を現在利用している割合は高くなっています。また、階層 1 における「児童扶養手当」を利用したことがない人の理由として「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が 1 割近く存在しており、制度周知の更なる取り組みが必要です。

★お子さんのヤングケアラー該当に関する認識について、階層が低くなるほど「あてはまる」の割合がやや高くなっています。ヤングケアラーという言葉の認知状況については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が本市全体で 5 割半ばであり、階層が低くなるほどその割合は低くなります。

小学生・中学生向け調査の結果

★学校以外での勉強の状況では、「自分で勉強する」が約 7 割で最も高くなっており、学年が上がるほど、「塾で勉強する」割合は高くなる傾向にあります。また、クラスの中での成績については、中学生における『下位』の割合が 3 割半ばと小学生を上回っています。

★日常生活については、多数の生徒が規則正しい生活を送っているものの、そうではないような回答も一定数存在しており、特に睡眠時間においては新型コロナウイルス感染症の拡大による影響（[夜遅くまで起きている回数］の増加、など）が要因の一つとして考えられます。

★困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人については、小・中学生共に「親」、「学校の友達」の順番で割合が高くなっており、それぞれ過半数を超えています。

★最近の生活満足度については、学年が上がるほど割合が低下する傾向がみられます。また、子どもの心理的な状態について、小・中学生ともに協調性や共感性などの向社会的行動傾向を示す「向社会性」の平均値が「情緒の問題」、「仲間関係の問題」と比べて高くなっており、特にアプローチが必要な問題であると考えられます。

★ヤングケアラーの該当認識について、「あてはまる」と回答した子どもの割合は本市全体で 3.3%であり、中学生よりも小学生の方がやや高くなっています。ヤングケアラーという言葉の認知状況については、学年が上がるほど認知している傾向ではあるものの、学年を問わず認知状況が低いという点は課題であり、特に児童生徒との関わりが多い学校に対して、周知が必要です。

子どもの生活状況調査　令和 5 年度　報告書【概要版】
発行：嘉麻市子育て支援課（令和 6 年 3 月）
住所：〒820-0592　嘉麻市上臼井 446 番地 1